

白十字病院 だより

2023. 冬発行 Vol.04



白十字病院 公園側

巻頭特集

高度画像センター

年間検査件数、約 17,600 件。積極的に ICT に取り組み、ネットワークを使用した、連携医との情報共有を展開。

TOPIC

“Student Doctor”

医学生の卒前・卒後のシームレスな医師養成制度

/ 救急医療にも貢献 “IVR” 治療

放射線科医が施行する低侵襲治療

白十字病院の SDGs

わたしたちの町のホームドクター

今春オープン：看護小規模多機能ホーム

詳しい病院情報ホームページはこちら

<https://www.fukuoka.hakujujikai.or.jp/>



白十字会グループの理念である「患者さんが1日も早く社会に復帰されること」そして「地域社会の一員として時代に即した社会貢献を目指すこと」を実現するための取り組みとSDGsの17の目標を結び、わたくしたちがどのような形でSDGsに関わっているのかをご紹介します。

9 産業と技術革新の基盤をつくらう



9.産業と技術革新の基盤をつくらう

白十字病院のデジタル化による変革

『医療DX』

「どうして病院はこんなに不自由なんだろう」、そう思った方は少なくないと思います。長い待ち時間、わかりにくい案内、スタッフを呼んでもなかなか来ない。病院は「ヒト」に加え、「病気」という非常に不確実なモノを相手にしているために、すべてが時間通り、思い通りには進みません。そんな中、働き方の変革のためにDX (digital transformation) が役立ちます。

ほとんどの病院ではコミュニケーションツールとして電話を使っています。一方、日常生活ではどうでしょう、電話連絡を行うことはほとんどなく、スマホでのメッセージがほとんどではないでしょうか？電話による、待ち時間や相手の時間を奪ってしまうことの不自由さがわかっているからです。様々な病気の患者さんが入院している急性期病棟では、職員は患者さんのケアのみならず、業務連絡で院内中を歩き回ることも多く、アナログ対応による非効率な業務では疲弊してしまいます。われわれが「日常」で多くの恩恵を受けている

はずのスマホを中心としたICT化が、実は「病院」ではなかなか実現化されていません。

iPhoneでのメッセージ機能を活用

現在、白十字病院ではすでに職員用iPhoneが導入されており、脳卒中センターを手始めに院内メッセージ機能の充実化を図っていきます。それにより、1対1のコミュニケーションのみならず、グループチャットによる情報共有で、さらに多くのコミュニケーションを生み出すことができます。それがさらなる協働を促進し、業務の効率化、働き方改革に繋がります。また、ペーパーレスシステムや電子処方箋、マイナンバーカード導入などのデジタルシフトをすすめています。病院の医療DXは、最終的に患者さんの医療に対する不自由さを解消させ、医療の質を高めてくれるものと信じています。2023年、白十字病院DXセンターは「日常を病院へ」を合言葉に、白十字会のDXをさらに進めていきます。

(DXセンター長/脳神経外科部長 福田 健治)



※写真はイメージです

4 質の高い教育をみんなに



4.質の高い教育をみんなに

～今まさに必要としている子供たちへ想いと共に～

企業の社会的責任(CSR)活動 『寄付活動』

まだまだ使用できる文房具、ランドセルなどの不用品…余っていませんか？定期的に当法人職員に呼びかけています。

白十字会グループは、2009年度から「企業の社会的責任(CSR)」を果たすため社会貢献活動に取り組んでいます。取り組みの一つに、『文房具寄付活動』を行っています。

現地で大人気のランドセルなどを寄付

日本では、使わなくなったランドセルを大切にとっておいてある方が70%を占めているそうです。思い出の品を、今必要としている子供たちへ届けたい、という思いに賛同した職員がランドセルや鉛筆、その他たくさんの文房具用品を寄付しています。集められた文房具は、「教育支援による貧困の脱却」を活動理念に掲げる一般財団法人NPO法人JIYUを通じて、ベトナム・カンボジアなどの

学校や施設に届けられます。

寄付している主な地域は、貧困などで十分な教育を受けることができず、将来の夢を諦めてしまう子供たちが多く、物資も足りなければ、教師も不足しているのが現状です。中には本屋もなく図書館もないため、寄付される本で勉強する程度の地域もあります。勉強をしたくても出来ない子供たちへ、少しでも勉強ができる環境をと、私たちが積極的に活動に参加しています。実際に寄付された文房具やランドセルを手にとった子供たちは、キラキラした笑顔でとても感謝しており、嬉しそうだったとの報告があります。

今まで使っていたものを届ける、とても簡単で身近な寄付。どこかで困っている子供たちを笑顔にでき、夢を応援できる素敵な寄付。当院のボランティア委員会では、これからも「自分にもできる」をモットーに、様々な活動を続けていきます。



ランドセルを手にした子供たち

写真提供:NPO法人JIYU



集められた文房具→

寄付した文房具用品 (2021・2022年度合計)

- ランドセル…8個
- 鉛筆(新品)…81本
- 色鉛筆(新品)…19本
- シャープペンシル…15本
- ボールペン(黒・カラー)…185本
- ペン・マーカー(黒・カラー)…123本
- 消しゴム(新品)…12個
- ノート…63冊
- 定規…7本 など